

三小だより 3月号



三小HPはこちらから

「学校・家庭教育に関するアンケート」結果より

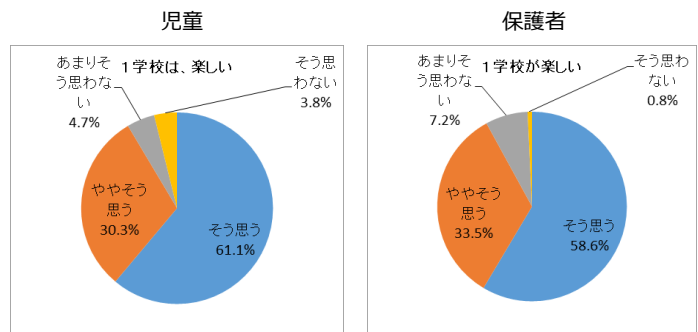
校長 寺下 憲志



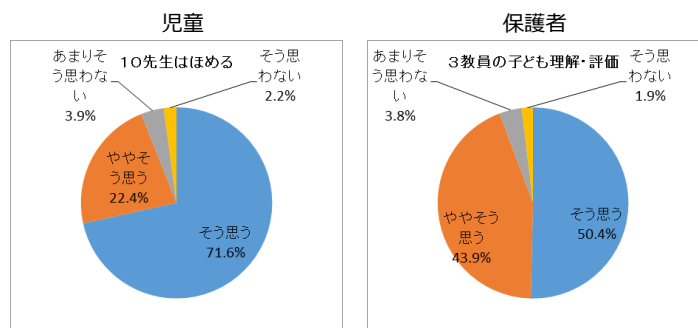
1月末のアンケート調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。集計結果については、教職員の自己評価とともに、学校HPで紹介していますので、ぜひ、ご覧ください。ここでは、結果からわかってきたこと、そして先日の学校協議会で委員の皆さまにご説明した、次年度に向けた計画を紹介いたします。

(1) 学校は楽しい

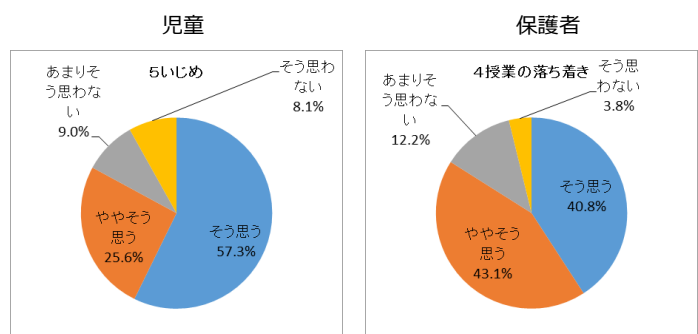
「学校は、楽しい」、「子どもは、学校が楽しいと言っている」の項目については弱い肯定を含めると児童・保護者とも9割以上が肯定しており、子どもたちにとって学校は楽しい場所であると考えられます。

(2) 先生はほめる

「先生は、がんばったことを、ほめてくれる」、「教員は、子ども理解し、適切に評価している」の項目についても肯定的な回答が9割を上回っており、教員の児童への関わりについて一定評価いただいていると考えています。

(3) いじめ・授業規律

「自分の身近にいじめはない」の項目については、8割以上の児童が肯定的な回答でした。この項目については、約2割の否定的な回答を重く捉え、指導に活かしたいと思います。また、子どもから話を聞いて回答する「授業は、落ち着いた雰囲気の中で行われている」についても肯定的な回答が9割を下

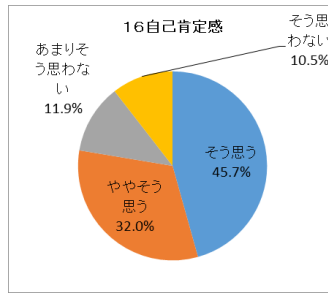


回っていました。学年によって差があったこともあるため、各学年の担当と結果を共有しました。より一層、指導法の工夫改善に努めたいと思います。

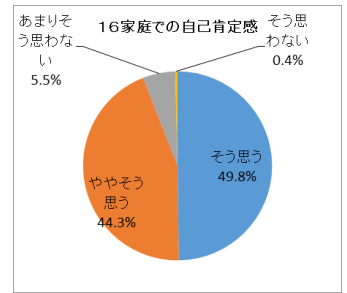
(4) 自己肯定感を高める

「自分には、いいところがある」の割合が、77.7%でした。保護者の「子どもをほめたり、励ましの言葉をかけるようにしている」の94.1%との差がとても気になりました。叱咤激励という言葉があるように、やさしい言葉かけや甘い言葉だけで子どもは育ちません。それは学校教育でも同じです。地域とも協力し、自己肯定感を高める取組みを進める必要があります。

児童



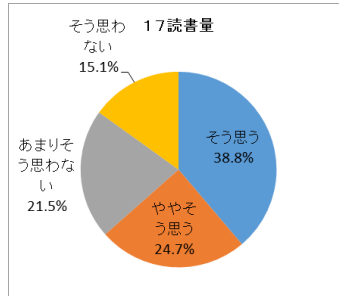
保護者



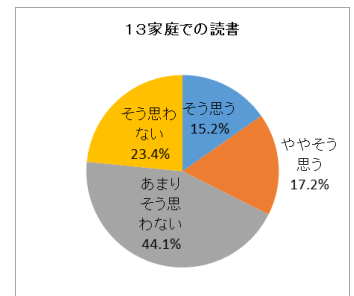
(5) 読書のすすめ

「読書時間や読んだ本の数」、「家庭での読書週間」は児童・保護者共に課題だと感じています。本校では全学年、図書室を利用する時間を設定していますが、文字の少ない本を読んでいる（見ている）児童が多いです。

児童



保護者



まとめ

本校児童は大変素直で人なつこく、多くの子どもが朝ごはんをしっかりと食べてから登校、楽しく学校生活を送っています。またお家のかたも、文書やメール等、学校からの連絡は必ず見ている（HP 学校評価より）など、学校教育活動への協力も得られています。ただ、日ごろの子どもたちの様子を見てみると、言葉遣いや学習姿勢、態度など気になるところがあります。とりわけ、言葉（語彙 ぐい）については課題であると捉えています。

人と人のコミュニケーションは一人 1 台パソコンの時代になっても重要です。今求められている学力は国語や算数といった 1 つ 1 つの教科の力ではなく、資料や人とのやりとりから自分の考えを根拠を持って説明する力です。そのためには資料を読み取る力、対話する力、表現する力が必要です。

この間の学校だけでなくお伝えしているように、言語は「聞く・話す・読む・書く」の順で育成されます。多くの正しい（文法としても）言葉をたくさん聞いて、授業や家庭で正しい表現で話し、本や Web 上から文や資料を読み、ノートや PC に書き込む。こういった日々の実践が子どもたちの言葉の力を高めます。

この結果を受け、次年度の本校の取組みとして

- ・読書活動を中心に児童の言葉の力を高める
- ・日々の授業や行事等から児童の「頑張り」を適切に評価し、保護者と共有することで児童の自己肯定感を高める
- ・PC 等、ICT を使った授業づくりを研究し、授業の工夫改善に努める



学校評価の結果はこちら

この 3 点を中心に「一人ひとりの力を着実に伸ばす学校」づくりを進めてまいります。保護者の皆さまのご理解・ご協力、引き続きよろしく申し上げます。（記述いただいた内容は本校 HP 上で紹介しています）